

未来をひらく 思いをつたえる

# Hirakû

34

表紙：“リアル Fruit Monster 登場！”

絵本「My Fruit Monster」に登場するフルーツモンスターを、

八尾校 A.K. ちゃんご家族が本物の果物を使って再現！

パイナップル、スイカ、バナナ、チェリー、いちご、オレンジ、レモン…など、

色とりどりの果物を使って作られたモンスターは、まるで絵本から飛び出してきたかのようです。

ご家族みなさんの創造力で、果物でできたモンスターのユニークな個性を見事に表現。

絵本の世界を身近に感じられて楽しいですね！

## アイデアを お待ちしています！

「Hiraku」では、英語・幼児教育の  
最新ニュースやトピックなど皆さまに  
役立つ情報をお届けいたします。

- ・最近気になっていること
- ・取り上げてほしい話題
- ・新しいコンテンツ etc...

皆さまからのご意見・ご要望を  
お待ちしています！

「Hiraku」編集部

TEL : 06-6135-0150

Mail : hiraku@kinderkids.ed.jp

Hirakû

2024 年 7 月発行 Vol.34

次回 9 月末  
発行予定

株式会社キンダーキッズ

TEL : 06-6135-0150

☎ 530-0033 大阪市北区池田町 3-1

ぶらら天満ビル 2F

www.kinderkids.com



★ネイティブ講師の保育士資格取得 ★My Stepping Stone<File7>

★CPR・エビペン研修とキンダーキッズの安全管理

★大阪大学留学生がキンダーキッズでインターンシップ

★インフィニティのIPCカリキュラム



日本の心と、英語の力。Kinder Kids inc.



保育士資格合格！

# ネイティブ講師 インタビュー

< Part 1: Lulu Qianmiao >

日本の保育士資格を取得することは、日本語を母語としない者にとっては大きな挑戦です。そんな困難な試験に合格した2名のキンダーキッズのネイティブ講師に、資格取得の動機や教育観などについて話を聞き2回に渡って掲載します。



Lulu Qianmiao

(天王寺夕陽丘校)

シンガポール出身。中学校の教師として勤めてから、日本に移住。数年間の日本企業での勤務経験を経て、若い世代の教育への情熱を再確認し、キンダーキッズに教師として参加。現在はアカデミーとインフィニティ初等部で中国語の授業を担当。自分の言語や文化を子どもたちと共有できる機会を大切に思いながら、ソーシャル・エモーショナル・ラーニング(SEL)\*を通じて、子どもの心身の健康を支えている。

【Social Emotional Learning】  
いわゆるIQ（知能指数）だけではなく、EQ（心の知能指数）にも焦点を当てた学習の取り組み。日本では「社会性と情動の学習」と訳される。

## 【日本での言語と文化の挑戦】

子どもが英語で自分をうまく表現できないこともあります。そんな時も根気強く接し、励ましの言葉をかけてあげることが大切です。自分の気持ちをうまく表現できるように、言葉やジェスチャーで手助けしてあげましょう。そうすれば、英語そして中国語さえも、使うことに自信を持てるようになるでしょう。

保護者にフィードバックする際、特に病気や怪我に関しては、

## 【保育士資格取得の動機とエピソード】

キンダーキッズに加わった当初、私はナーサリークラスの教師として配置されました。中学校の教師としての経験はありましたが、幼い子どもたちと直接関わるのは初めてで、新しい環境に慣れるまでは非常に苦労しましたが、クラス担任のパートナーは経験豊富で、私を力強くサポートしてくれました。自分を単なる言語教師とは考えず、子どもたちの安全、健康、成長をサポートする保育者としての役割も担っていると自覚し、自分自身も保育の分野でより深い知識を身につける必要があると感じました。そして子どもたちをあらゆる面でどのようにサポートするかをもっと学びたいと思いました。

日本人の同僚の多くが取得している保育士資格の話を聞き、日本語もある程度理解できていたので自分にもできるかもしれないと考え、資格試験への挑戦を決意。スクールマネージャーや他の同僚からは、常に励ましや有益なアドバイスを受け、そのおかげで多くの困難を乗り越えることができました。

保育の知識だけでなく、高度な日本語能力も問われる試験は厳しいものでした。辞書を片手に勉強し、試験内容を一つひとつ確実に理解していく過程は、長くて過酷なものでした。学習・復習を繰り返すこと1年半、3回目の挑戦でついに全ての筆記と実技の試験に合格しました。外国で、外国語による試験で、保育の専門資格を取得できたことは、私にとって非常に誇りです。



子どもに関する最も正確な情報を伝えることが重要です。私の日本語能力を考えると子どもについて適切な情報を伝えることができるかどうか心配なこともあります。そんな時も日本人の同僚が通訳をしてくれてとても助かりました。

## 【教育方法について】

私の教育哲学は、学習プロセスを子どもたちにとって楽しく魅力的なものにすることです。子どもが授業から遠ざかってしまっている場合、それは彼らが退屈しているからです。私は授業を面白くし、子どもたちが喜ぶような方法で、歌やゲーム、物語、多様なメディア、工作、風船、マジックトリック、ステッカー、人形など、思いつく限りのあらゆる工夫を駆使しています。子どもたちを楽しませ、笑わせ、学びを楽しんでもらうことが私の目標です。また、教師自身も楽しむことが非常に重要です。教師が授業を楽しんでいると、子どもたちも学びを楽しむようになると私は信じています。

## 【子どもたちとの信頼関係の構築】

子どもたちとの関係を築く際には、誠実に心を開いて接することを心がけています。日々、一日の出来事や好きなキャラクター、使っている髪留めなど、さまざまな話題で会話を楽しんでいます。誠意と愛情を感じると、子どもたちは自然と心を開いてくれます。これが良好な関係の始まりであり、日常のささいな話題から彼らをより深く理解することができます。また、異文化の背景を持つ保育提供者として、私たちは教室に「世界」をもたらし、多様な文化や国籍の存在を子どもたちに教えます。積極的に私の言語や文化を伝え、中国の伝統的な祭りを、物語やクラフトを通して紹介しています。特別な日には、伝統的なドレスを着て授業を行うと子どもたちはその服装に興味津々！私たちは子どもたちの国際社会への意識を高め、多様性の中の調和の大切さを伝えることが重要です。



## 【今後の目標】

保育のプロとしての知識と経験を生かし、子どもたちの様々な学習ニーズに応えながら、効果的に学べるよう、より魅力的なレッスンを計画し、進めていきたいと考えています。また、「国際中文教師資格」を取得することで、キンダーキッズやインフィニティの中国語部門をより充実させたいと思っています。子どもがどのように発達していくのかをあらゆる角度から理解することで、若い学習者に合わせたオリジナルのカリキュラムや学習教材を作成し、自信と思いやりのある、多言語を操ることのできる世界市民へと成長させることができると信じています。

## 【海外で保育提供者として働くことを検討している人へ】

保育提供者として海外で働くことを検討しているなら、是非挑戦してみてください！言語の壁や文化の違いに躊躇せず、新しい一歩を踏み出してください。老子の言葉に「千里之行、始于足下」(Qiān lǐ zhī xíng, shǐ yú zú xià)、「千里の道も一歩から」という教えがあります。これは、偉大な成果はたった一つの行動から始まることを述べています。未知のことに対する恐怖や自己疑念が新しいことに挑戦することをためらわせることもありますが、心を開いて、知識を深める意欲を持ち、自分に挑戦する勇気を持てば、きっとあなたの心を想像以上に豊かにしてくれるでしょう。





# My Stepping Stone 〈File7〉

スタート地点はキンダーキッズ。

卒園後、自らの力で切り開いたフィールドで、

奮闘している卒園生をご紹介します。

テニスへの情熱を燃やし続け遂にプロの舞台へ  
さらなる成長を目指し全米屈指のスポーツ強豪校マイアミ大学へ進学  
学業とスポーツを両立し、世界中で愛されるテニスプレーヤーになりたい

## マイアミ大学での新たな挑戦

私は高校卒業後、全米屈指のスポーツ強豪校であるマイアミ大学に進学することが決まりました。マイアミ大学はアカデミックの質と充実したテニスプログラムが魅力で、多様な文化が交差する環境で自分を成長させるのに最適だと感じました。学校の雰囲気やコーチ、学生たちとのやり取りが決め手となりました。

## キンダーキッズでの英語教育

キンダーキッズで培った英語力は、後の学生生活やテニスに大いに役立っています。特に中学時代にフロリダのIMGでトレーニングを受けた際、コーチや世界各国から参加する選手たちとのコミュニケーションに直接活かされました。また、大学のインタビューやプレゼンテーションでも、幼少期からキンダーキッズで培った人前で発言する土台が役立ちました。



## スポーツと学問の両立

スポーツと学問の両立は確かに高いハードルですが、日々のスケジュール管理と優先順位の設定でバランスを取っています。電車通学の時間や授業の合間の時間を有効に活用し、目標を達成するために計画的に取り組んでいます。

## お父さんは「パッション」の人

小学生の時には駅までの通学路でランドセルを背負いながらトスの練習やバックステップを行うなど、父は毎日一緒に伴走してくれました。これはただの体力づくり以上のもので、毎日のルーティンを通じて自己規律を学び、目標に向かって一歩ずつ進むことを自然と身に付けられたと思います。

## 後輩へのメッセージ

英語は自分の可能性を広げる大切なツールです。楽しみながら積極的に学んでください。キンダーキッズでの友達や先生との関係を大切にして、世界のことをもっと知っていきましょう。



## マイアミ大学 [University of Miami, UM]

フロリダ州マイアミ市南西郊のコーラルゲーブルズ市に位置する私立総合大学。マイアミ大学は2022年度のNCAA全米ランキング16位だけでなく、アカデミック面でも全米大学ランキング67位に位置する文武両道の名門私立大学

大阪本校 卒園生

新井愛梨さん  
(Aely)

マイアミ大学  
Freshman



キンダーキッズ大阪本校2012年卒業。小3からテニスを始め、持ち前の身体能力の高さと粘り強さで頭角を現す。卒園後、同志社国際初等部に入学し2024年、同校高等部を卒業。フロリダ州の強豪マイアミ大学とフルスカラーシップを含む大型契約を締結し、9月に渡米予定。

### 【受賞歴】

2017年	IMG Academy Discovery Open Under12 Girls 優勝
2022年	ITF World Tennis Tour J60 Miki City 優勝
2023年	関西ジュニアテニス選手権大会 優勝
2023年	全国高等学校テニス選手権大会 準優勝
2024年	W15 TOKYO大会 シングルス ベスト16 ダブルス ベスト4
2024年7月	SBC DREAM TENNIS TOUR 2024 出場



愛梨さんの成長と挑戦を支えてきたお母様に、愛梨さんの幼少期のエピソードや家庭でのサポート体制についてお話を伺いました。愛梨さんがどのようにして夢を追いつける力を得たのか母親の視点から振り返っていただきました。

### ー お母様から見た愛梨さんはどんな子でしたか？

大学の進路について娘に「本当に海外に行くの？」と聞いた時、「迷ってるのはお母さんだけよ、私は大丈夫。パスポートとメンタルだけ持ってアメリカに行くわ」と答えました。この言葉を聞いた時、娘の成長と頼もしさを強く感じました。思えば、彼女は小さい頃から頼もしい存在でした。K2(年中)の時、イギリスの空港で長蛇の出国検査の列に並んでいる際、ペットボトルの水を全て飲み干し、「I'm finished!」と言って空港係員を驚かせたことがありました(笑)。

### ー ご両親はどのように愛梨さんをサポートしましたか？

夫は愛梨のテニスへの情熱を全面的に受け止め、彼女の日々のトレーニングや試合参加のサポートをしています。一方、私は裏方として、彼女の日々の生活がスムーズに運ぶように支えています。例えば、困難に直面したときには夜に足をマッサージしながら話を聞き、気持ちが前向きになるよう励ましています。ケガをしたり、思い通りにならなかったりすることも多いですが、何を失ったかではなく、何を学べるかに焦点を置き、次のステップに進めるようなサポートを心掛けています。

### ー 子育てについて、どのように考えていますか？

姉弟それぞれに合った教育を重視し、上の子だからやる、下の子はしないという考えは持ちません。下の子が犠牲になることなく、個人に合った道を選ばせることが大切だと考えています。

【編集部】6年前にインタビューで当時12歳の愛梨さんに将来の夢を聞いたところ、「世界中の人々に愛されるテニスプレーヤーになりたい」と答えていました。その夢の実現にどんどん近づいている愛梨さんに心からエールを送りたいと思います。Go Aely!



# CPR&エビペン研修会

## 指導担当者インタビュー

今年度開始前の春休み期間中、明治国際医療大学の上久保敦先生とレゴランド・ディスカバリー・センター大阪の波多野に志さんをお招きし、CPRとエビペン使用法のスタッフ研修会を行いました。遠隔地のスクールはリモートで参加し、同時通訳を通じて国籍を問わず全スタッフが参加しました。受講したスタッフからは、「とても分かりやすく、実践して備えることの重要性がわかった」と高い反響を呼びました。今回は、研修会でご指導いただいたお二人にお話を伺いました。



明治国際医療大学  
保険医療学部 救急救命学科  
教授 上久保 敦 さん

### 【今回の講習の背景や経緯】

18年前から学校保健と教育安全に関心を持ち、応急手当の重要性を普及させる活動を開始しました。当初は3校から始まり、現在では年間30校からの依頼を受けるようになりました。今回の研修は、レゴランド大阪の波多野さんからの相談がきっかけで実施しました。教育機関では、軽度の怪我や発熱から、重度では骨折や意識障害およびアレルギー、最悪の場合は心肺停止まで様々な事案が発生します。教職員全体の意識が低かった当時、救えなかった命の報道を耳にするたびに、教育環境の改善が必要だと強く感じました。今回の研修も、安心して子どもを預けられる環境作りを目指し、保健環境の整備と安全教育の向上を図るために企画されました。

### 【実技の重要性】

数字や説明文を覚えるだけでなく、実際にトレーニングすることで手技の感覚を身体と脳にインプットすることが重要です。不慮のトラブルは突然発生するため、緊迫した状況でもその感覚を思い出し、命に向き合う意識で行動できるようになります。

### 【参加者の反応】

最初は他国の方々が多く参加していたことに対して不安がありましたが、とても熱心な姿勢で参加されていたことが印象的でした。皆さんの反応は非常に良く、目線や姿勢からも意欲の高さを感じました。私の方が受講者の皆さんに支えられて研修を進めることができました。

### 【安全管理の重要性】

プリスクールや保育園では、施設長や管理者だけでなく、全職員が応急救護の知識を持つことが重要です。具体的には、症状に合わせた対応、救急要請、病院受診の判断、保護者や関係機関への連絡、病院受診の付き添いなど、職員全員が判断と連携を取れるようにする必要があります。また、3歳児以上の園児にも自己防衛や怪我に繋がる遊び方、急病時の対応を教えることで、園全体の安全管理が向上します。園児にも命の大切さを学ばせることができます。

### 【定期的な救命救急研修を行うことの意義】

実際に使用する機会がないと自信や質は身につけません。定期的なトレーニングでスキルを定着させる必要があります。また、職員体制が整っている時間帯に限らず、いつでもどの職員が対応しても同じ対応ができるようにすることが重要です。研修内容は状況や季節に応じて実施し、予防



対策を明確にすることで、業務体制を強化できます。根拠に基づいたトレーニングを重ねることで、冷静に対応できるようになります。

### 【頻発する緊急事態と効果的な対応策】

上久保敦先生が語る、今回の研修で重要な5つの項目を紹介し、子どもたちの安全を守るための実践的な知識を学びます。

- ① 友だち同士での衝突による裂傷や出血
- ② 夏季の屋外での熱中症
- ③ 嘔吐や熱性けいれんなどの突然の疾患
- ④ 運動や遊びでの裂傷、打撲など
- ⑤ アレルギー食材の誤提供によるアレルギー反応、動植物アレルギーによるアナフィラキシーショック

友だち同士の衝突や運動遊びの怪我には、応急手当の知識が重要です。夏季の屋外活動では、体調チェックとWBGT指数の確認、熱中症対策グッズが効果的です。突然の疾患には、疾患対応マニュアルと模擬実践が重要です。アレルギー反応防止には、ロールプレイングとダブルチェックが必要です。動植物アレルギー対策には、事前調査とエビペンの投与方法の理解が求められます。また、子どもたちが自身が身を守ることの大切さを学ぶことや、保護者との良好な関係も安全管理向上に重要。



レゴランド・ディスカバリー・  
センター大阪  
波多野 仁志 さん

### 【緊急時の対応ポイントと教訓】

レゴランドで救急救命や応急処置に携わる中で、特に重要だと感じるポイントは「慌てないこと」です。緊急時には、冷静に傷病者の状況を確認し、大勢の人を呼んでマンパワーを確保することが重要です。また、定期的なシミュレーショントレーニングが必要であり、テーマパークでも定期的の実施しています。

### 【多くの入場者がいる中での緊急対応】

テーマパークでは、傷病者のプライバシーを確保しつつ、役割分担とチーム連携を重視しています。これにより、円滑な救急対応が可能になります。

### 【猛暑対策と事前準備】

猛暑の外出先では、水分補給と休養が必須です。真夏のテーマパークでは、楽しさに夢中になり、これらが疎かになりがちです。水分補給には、お茶や水だけでなく、塩分を含むスポーツドリンクも推奨します。また、熱中症予防には適切な食事と十分な睡眠が重要です。特に若年層では自己管理ができていないケースが多く見受けられます。事前に暑さに負けない体作りを心がけることが大切です。さらに、怪我に繋がる遊び方、急病人が出た時の対応を教えることで、園全体の安全管理が向上します。園児にも命の大切さを学ばせることができます。



### キンダーキッズの安全管理について

この研修は保育教育部主催で実施された、子どもたちを安全に預かり、その成長を見守るための重要な研修です。ご指導いただいた上久保先生と波多野さんに深く感謝申し上げます。エビペンやCPRの講習は、救急車到着までに行っていることを学び、命を守るために行っています。キンダーキッズでは毎月2回の避難訓練や防災センターでの研修、警察による不審者対応訓練も実施し、アレルギー講習で最新情報を全スタッフに周知しています。今後も安全管理のPDCAサイクルを維持し、保育の質を向上させていきます。



保育教育部  
道端 直美





スウェーデン王立工科大学  
エリック・レックマンさん

# キンダーキッズで 国際インターンシップ体験

この春、キンダーキッズは大阪大学に留学している学生を迎え、インターンシッププログラムを実施しました。4月から7月にかけて行われたこのプログラムで、直接子どもたちと関わりながら、幼児教育の

## Q.なぜ日本での留学を決めたのですか？

A.ヨーロッパの文化とは大きく異なる日本文化に触れることは、文化的にも豊かな経験になると思ったからです。また、日本の教育が高水準であることも魅力的でした。新しい文化の中で学びを深めるには、日本が最適な場所だと思いました。

## Q.なぜキンダーキッズでのインターンシッププログラムに参加しようと思ったのですか？

A.日本のビジネスの運営方法に興味があり、以前このプログラムに参加した友人が勧めてくれたこともあって、参加しました。また、私の学士論文で取り組んだ第二言語習得に関する研究を、実際に活かす絶好の機会だと思いました。

## Q.キンダーキッズのクラスでどのような体験をしましたか？

A.参加したクラスでは色々な挑戦をしました。子どもたちは優しく、学習意欲は高かったのですが、非常に活動的だったため、子ども達の注意を引き続けるには努力が必要でした。注意をひくためには、子ども達それぞれの個性を知ることが大切だと学びました。

## Q.日本と自国の教育にはどのような違いがありますか？

A.日本の教育と比べると、スウェーデンでは外で過ごす時間(外遊びの時間等)が多く、授業数が少なかったことを覚えています。



## Q.キンダーキッズでの経験があなたの教育観にどのような影響を与えましたか？

A.教育はできるだけ早期から始めるべきだということの重要性を強く実感しました。靴紐を結べないほど幼い子どもたちが流暢な英語で会話できるのを見て、大変驚きました。

## Q.インターンシップで学んだ最も重要なことは何ですか？

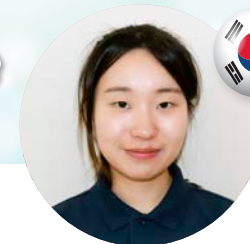
A.私が学んだ最も大切なことは、子どもたちに教師だと認識してもらうことです。週に1回の訪問では友達のように思われがちですが、教師だと認識してもらうために、声のトーンやボディランゲージを調整し、適切な距離間を保ちました。

## Q.他の学生にキンダーキッズのインターンシッププログラムの参加を勧めますか？その理由は？

A.はい、絶対にお勧めします。ここでの経験から多くを学びました。また、スタッフの皆さんも熱心で、サポートも厚く、子どもたちと楽しい時間を過ごせました。



# 大阪大学留学生の国境を越えた学び



釜山大学校  
キム・ジウンさん

現場実務を体験した学生達。この体験から、何を学んだのか？また日本の教育現場に対し、どのような感想を持ったのか、二人の学生にインタビューしました。

## Q.なぜ日本での留学を決めたのですか？

A.親戚が日本に住んでおり、小さい頃から日本のことをたくさん聞いて育ちました。日本の文化や食事が特に興味深く、日本語も学習しています。日本で生活しながら、その文化を直接体験し、同時に日本語のスキルを磨きたいと思ったため留学を決めました。

## Q.なぜキンダーキッズでのインターンシッププログラムに参加しようと思ったのですか？

A.韓国の英語塾で4年間英語を教えていましたが、そこでは主に試験の点数を上げることが教育の焦点でした。その方法には明確な利点と欠点があると感じていました。地理的に近い日本では、教育方法が似ているのか、またはどのような違いがあるのかを確かめ、それを比較することで、生徒が英語をより簡単に楽しく学べる方法を見つけたいと思いました。

## Q.キンダーキッズのクラスでどのような体験をしましたか？

A.子どもたちに英語を教え、英語で遊びました。子どものスキルを伸ばすには、彼らの英語への興味を引き出すことが大切だと感じました。子ども達は英語に興味を持つと、とても活発になりました。

## Q.日本と自国の教育にはどのような違いがありますか？

A.私が英語を学んだ学校や、教えていた英語塾とキンダーキッズは異なるので、直接比較するのは難しいですが、同年代の日本人の友人から話を聞いたり、今の韓国の子どもたちの英語学習法を見ると、日本と韓国の教育方法は似ていると感じます。



## Q.キンダーキッズでの経験があなたの教育観にどのような影響を与えましたか？

A.何かを学ぶ上で環境がいかに重要かを学びました。集中して学べる環境が整っていると、学びが効果的になります。また、学ぶ意欲を引き出す状況を作ることも大切です。さらに、早期に新しい言語を学ぶ方が習得が容易だと感じました。

## Q.インターンシップで学んだ最も重要なことは何ですか？

A.教育は人と人との関係の中で起こるものですから、教師と生徒の良好な関係を築くことが最も重要だと思いました。

## Q.他の学生にキンダーキッズのインターンシッププログラムの参加を勧めますか？その理由は？

A.はい、ぜひお勧めします。インターンシップを通じて、教育的な観点だけでなく、生徒との人間関係を築く観点からも多くを学びました。この経験が今後の私の人生に大きなプラスの影響を与えていると思います。







インフィニティ国際学院初等部では、3年目からIPC(International Primary Curriculum、国際初等教育カリキュラム)を導入し、各テーマに応じた教科横断的な探究学習を展開しています。IPCはIB(International Baccalaureate)のPrimary Years Programmeやケンブリッジプライマリといったカリキュラムと同様に、国際的な教育基準に基づいていますが、特に実践的な探究活動に重点を置いています。イギリスのナショナル・カリキュラムの学習目標に準拠し、教科の枠を越えたテーマベースの学習はキンダーキッズのカリキュラムに採用されているテーマ学習とも高い親和性を持ち、科学、地理、歴史など複数の教科を統合した授業を行います。

### IPC 授業の一例『Learning Safely Online(オンライン安全教育)』

この授業では、情報リテラシーの向上を目指し、情報の収集、分析、および効果的な伝達方法に焦点を当てています。

#### <情報収集>

子どもたちは「Screen Time Tracker」を使用して自身のデジタルデバイス使用状況を確認し、これによりデジタルメディアの利用に対する自己認識を高めます。

#### <分析>

「Make a Bar Graph」という新しいWebアプリを導入し、子どもたちにまずはアプリを自由に操作させました。この手法により、子どもたちは直接体験することでアプリの使い方を素早く学び取りました。続いて、子どもたちはクラスメイトに対してインタビューを行い、どのデバイスを最も頻繁に使用しているか、その使用目的についてデータを収集しました。この情報を「Make a Bar Graph」でグラフ化することで、情報の分析と視覚化の技術を学びました。

#### <効果的な伝達>

授業の終盤では、子どもたちは自身のオンライン行動を評価し、「SeeSaw」というSNSアプリにグラフのスクリーンショットを提出しました。このプラットフォームを通じて成果を共有することで、オンラインでの情報処理の安全性と効果性についての理解を深め、デジタルリテラシーを強化しました。



IPCに基づいたカリキュラムを採用することで、従来教科ごとに分かれていた学習内容が連携し、現実世界の問題に深く取り組むことが可能となります。2週間から6週間の期間で一つのテーマを深く学び、教室内だけでなく、社会で必要とされるスキルを磨く教育を実践しています。

## 入学式



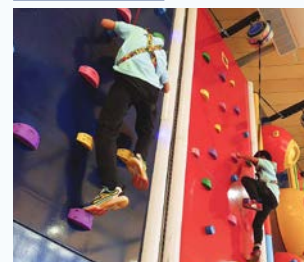
2024年4月、インフィニティ国際学院は新しい1年生を温かく迎えました。今年の入学式では、在校生たちが新入生を式典に引き入れ、在校生代表が英語と日本語で力強い歓迎のスピーチを行いました。新入生たちは、将来の夢について語るパーソナルビデオを披露し、その創造力を発揮しました。

校長はスピーチで「成長マインドセット」の重要性を強調し、継続的な学びがいかに重要かを訴えました。インフィニティ国際学院は、

単なる教育機関を超え、共に成長し支え合うコミュニティを築くことを目指しています。保護者の皆様の理解と協力も、この目標達成には不可欠です。これから多くのイベントを通じて、教職員と生徒たちが一丸となって達成した成果を皆様にお見せできることを楽しみにしています。



## 遠足



IPCユニット「How Humans Work」の一環として、1年生と2年生は、心と体の仕組みを探索しています。このユニットでは、生徒たちが自分の体をどのように使うかを学びながら、身体活動を通じてその理解を深めることが重視されています。この目的のために、最近の遠足ではクライミングウォールに挑戦しました。この活動は、生徒たちに身体の限界を試す機会を与えるだけでなく、恐怖を克服し、新たな技能を習得するプロセスを通じて、心の強さも育てることを目指しています。

クライミングウォールを登る際には、筋力、調整能力、そして決断力が試され、これらはすべて「How Humans Work」ユニットの学習目標と直接的に関連しています。生徒たちは、個々の挑戦を乗り越えることで、自己効力感を高め、身体的な活動が心にどのように影響を与えるかを実感しました。遠足を通じて、彼らは自己超越の喜びを経験し、困難を乗り越えることの価値を学びました。



## インフィニティ国際学院初等部 2025 年度 募集要項

出願期間:2024年7月25日(木)9:00 ~ 8月20日(火)17:00

※インターネット出願のみとなります。

書面での出願はできませんのでご注意ください。

● 詳しくは、HPにて

